

中間評価結果（平成17年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	社会心理学に基づくコミュニケーション型TDMに関する研究開発	東京工業大学大学院 助教授 藤井 聡	B
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> モビリティマネジメント施策の更なる普及・促進のため、行政機関と密接な連携体制を図り、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> わが国の社会的特徴をモビリティマネジメント施策にどのように反映させるのか意識しながら研究を推進していただきたい。 市民意識や国民意識の変化を通じ、公共交通政策の方向性そのものを変革させる事がモビリティマネジメントの大目標であり、配慮していただきたい。 各地域の調査結果の取りまとめにあたっては、地域特性を明記の上、モビリティマネジメントの影響を明確にする事が望ましいと考えられる。 モビリティマネジメントの効果目標を地域ごとに設定し、目標の達成度などは協力者にフィードバックする事が必要と思われる。 より深く国内事情を調べ、モビリティマネジメントの手引き書のとりまとめを優先的に行うことが望ましいと考えられる。 モビリティマネジメント支援システム、TFP（トラベル・フィードバック・プログラム）ツール、公共交通地図など、既に開発されているものについては、試行的に他の地域でも活用できる仕組みを考えていただきたい。 			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
	市民参画型道路計画体系の提案と道路網計画における対話技術の開発	東京工業大学大学院 教授 屋井 鉄雄	B
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究開発要素を確認し、実務として行うべき部分と、研究として行う部分を明らかにしつつ、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「市民参画手法の検討」と「対話支援システムの検討」の具体的な関係性が明確でないため、両者の関係を例えばケース分けなどによって明示し、「対話支援システム」で開発するツールの特質を明確にしていきたい。 我が国及び欧米の現状の課題を踏まえた対話支援システムの仮説設定を速やかにお願いしたい。 			

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	道路機能に対応した性能目標照査型道路計画・設計手法論の研究開発	名古屋大学大学院助教授 中村 英樹	A
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究体制、目標、現段階での成果、進捗状況はともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 参考意見 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国の道路整備が置かれた状況を十分に勘案の上、今後より確実に成果を得るため、研究適用対象を絞り込む（例えば中山間地の2車線道路を対象とする等）ことによって、さらに効果的な研究とされることを期待する。 信号制御のあり方など、交通制御によって道路の性能は大幅に異なるので、その点にも十分な配慮をお願いしたい。 			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
	集客地の活性化に資する、道路のホスピタリティ表現手法についての研究開発	東京大学アジア生物資源研究センター 教授 堀 繁	C
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 道路のホスピタリティの概念が整理されておらず、現段階での研究の見通し、進捗状況が良好でないため、計画を修正する必要がある。 <p>< 修正内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> わが国の道路が抱える「ホスピタリティ」上の問題点は、必ずしも歩行者ゾーンなどに限るものではない。例えば、高速道のPA、一般の幹線道路の沿道や道の駅、バイパス整備後の旧道への対応などについて、道路行政上も大きな関心を持っているところである。このため、道路の各クラスに応じた整理を行い、研究方法の具体性とその応用の現実性を十分につめた研究計画を再提出していただきたい。 ホスピタリティおよびホスピタリティ表現の概念整理が必要であり、その調査、分析、評価の方法を提示していただきたい。 2年目で成果（アウトプット）を出す明確な目標設定をお願いしたい。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 本研究では「事例集」の質が重要と考えられるため、「事例集」の内容（グラフィックデザイン含む）の充実を図り、出版可能なものを完成させる体制計画とすることが必要と思われる。できれば、写真集とコメントだけでなく、図面なども整理していただくことが望ましい。 できれば単なるデザイン論に終らず、道路の計画、利用、建設、維持管理費用負担の主体、手法、制度に対する新しい知見と提案が可能となるように努力していただきたい。 今回は国内調査に重点を置いて実施していただくことが望ましいと思われる。 			

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	道路機能に基づく道路盛土の経済的な耐震強化・補強技術に関する研究開発	大阪大学大学院 教授 常田 賢一	A
<p><研究継続の妥当性評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究体制、目標、現段階での成果、進捗状況はともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 従来型の耐震性能評価、耐震強化との相違点を明確にすることが望ましいと思われる。 遠心載荷実験、解析手法等の提案されている方法と目標との関係を明確にしていきたい。 「経済性」について、従来工法と比較してどの程度を目標とするか明確化が望まれる。 本研究において、地震リスクを考慮した耐震強化方法や耐震補強方法を採用の必要性を明確にすることが期待される。 道路機能の位置づけや改善される道路機能の具体化など、本研究における「道路機能に基づく」のコンセプトを明確にすることが望ましいと思われる。 			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究開発	日本大学 教授 高田 邦道	B
<p><研究継続の妥当性評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故データの収集や効果評価などに課題はあるが、現段階での研究の見通し、進捗状況は概ね良好であるため、指摘事項に留意し、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 最終的な成果物イメージの明確化が望まれる。 「交通事故半減モデル」の効果評価を確実に言い、自治体への展開などに活用していくことが必要と考えられる。 警察の交通事故データの収集について、見通しを明らかにしていきたい。交通事故の専門家の参加について検討が必要と思われる。 他地域への展開のポイント（「情報の収集方法」「情報のフィードバック」「実際の効果」）をより明確に意識し、汎用化のために打ち出していくことが望ましいと思われる。 研究目標を実現するため、周辺自治体の導入意欲、受け入れ態勢等について、密接な連携体制を構築するなど、十分な検討をお願いしたい。 			

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	A S R劣化構造物安全性能評価手法の開発	京都大学大学院 教授 宮川 豊章	B
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 劣化メカニズムの解明や構造安全性評価の方法論などに課題はあるが、現段階での研究の見通し、進捗状況は概ね良好であり、指摘事項に留意し、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ASRでの鉄筋破断のメカニズム解明、初期値がない状況での非破壊検査（UT）の評価や深さ方向の劣化の評価方法などについて、十分な検討が必要と考えられる。 非破壊検査システムに工夫が必要と思われる。 超音波による非破壊検査について、より計測措置や環境条件に左右されにくい方法（例えば、海洋探査などにおける Tomography 概念の適用可能性）を検討していただきたい。超音波の減衰メカニズムの定量モデル化について検討が必要と思われる。 昨今の問題を考えると、非破壊検査に係る評価手法について、特に重点的に研究することが望まれる。 内部劣化状況と計測結果を合わせた成果は、今後の研究のために貴重な情報と考えられるため、データを公開することが望ましい。 鉄筋とコンクリートの一体性評価については、限られた供試体の劣化状況に依存する部分が多く、確実に一定の効果が得られるよう、慎重な研究進捗管理が望まれる。 評価の一般性を確保することに十分留意していただきたい。 			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
	多機能検査車走行による道路構造物の健全性評価	京都大学大学院 助教授 杉浦 邦征	C
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 走行検査技術や健全性評価技術の現段階での実現の見通し、研究の進捗状況が良好でないため、計画を修正する必要がある。 <p>< 修正内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 時速 60km 程度の走行での検査技術の実現、および検査車のイメージを明確にした研究計画を再提出していただきたい。 計測しようとするデータ（物理量）、そのデータに基づく健全性評価技術について明確にしていきたい。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新設時の設計情報を組み合わせた評価技術、あるいは新設時の初期データがない状態で健全性を評価する方法について、検討が必要と思われる。 実用化に向けて、健全度評価手法の要求性能に見合う設定を行うことが望ましいと考えられる。 			

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。